

◎出題意図, 解答例, 講評

試験科目名 □専門科目: _____

外国語科目: 前期課程・一般選抜 _____小論文 (社会人特別選抜)小論文 (外国人留学生特別選抜)

設問 I

【出題意図】

D. Kolb による *Experiential Learning* を解説する教育学の論考を取り挙げた。重要となる論点やその解説を的確に読み解き、過不足なく日本語訳することを求める問題とした。

【解答例・講評】

一般的な教育学の知識があれば、適当な訳語を見出すことの難度は高くなかったと思われる。その一方で、的確な日本語へ書き出すことにつまずく解答が散見された。指示語が示す内容の正しい把握と、それを踏まえた日本語の運用能力も求められる。

設問 II

【出題意図】

マイサイドバイアス (*mys idebias*) に関する書籍より、混同されやすい用語である確証バイアス (*confirmation bias*)、信念バイアス (*belief bias*) との相違から、本書におけるマイサイドバイアスの定義を明示しようとする節の一部を取り上げた。文章の主旨を理解した上で、日本語訳および日本語による説明が分かりやすく正確にできるかどうかを問う問題とした。

【解答例・講評】

英単語や英熟語、英文法の基礎が身につけていれば、必ずしも専門的な事前知識を要しない問題であったと思われる。しかしながら、精度の高い解答が見られた一方で、日本語訳の問題では構文を正しく読み解き全体構造を理解することが十分にできていない解答が散見された。また説明問題では、下線部の段落とは別の段落を参照する必要があったため、難易度が高かったようである。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 専門 生涯教育科学コース

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問

【出題意図】

現代的な課題に対する具体的な論述、及びフィールドワークに関する人類学、社会学的理解の記述を求める設問であった。いずれも研究を行うために必要となる基礎的な学術的理解を問うものといえる。

【解答例・講評】

ある程度まとまった論述がなされていたものの、十分な学術的理解に基づく記述には至っていなかった。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 専門科目： 教育政策科学

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問

【出題意図】

共通問題では、教育政策科学の研究を進めていくうえで不可欠な図表やグラフの読み取り能力、ならびに読み取った情報を複数の社会的文脈に位置づけて適切に意味づけ、解釈する力を問うことを目的として出題した。

教育行政学領域では、日本の教育行政・制度についての基本的な知識に立脚して図表を読み取る能力と、基本的事項について論理的かつ簡潔に説明できる能力を問う問題とした。

【解答例・講評】

（共通問題）

受験者がいなかったため、講評不能とする。

（教育行政学領域）

受験者がいなかったため、講評不能とする。

◎出題意図, 解答例, 講評

- 試験科目名 専門科目： グローバル共生教育論コース前期2年の課程 (一般選抜)
 外国語科目： _____
 小論文 (社会人特別選抜)
 小論文 (外国人留学生特別選抜)

設問 I 共通問題 (全員解答すること)

シティズンシップの概念を定義したうえで、グローバル化する現代社会における教育とシティズンシップの関係について具体例を挙げながら論じなさい。

【出題意図】

【設問 I】はグローバル共生教育論コースに共通して関わる知識を問う問題である。問題文の指示に従ったうえで、シティズンシップの概念や、シティズンシップと教育との関係性について、専門知識に基づき論理的に解答しているかどうか、用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

【解答例・講評】

定義については、シティズンシップと社会参加との概念を混同する解答が目立った。それゆえ教育との関係性についても、単純に社会参加を促進するという点からの論述になる傾向があった。権利や義務、あるいはアクティブ・シティズンシップといった観点も十分に組み込んだ論述は不足していたと言える。

設問 II：選択問題 (志望する専門領域の問題を選択して解答すること)

【多文化教育論領域】

文部科学省「外国人の子供の就学状況等調査 (令和6年度)」によれば、令和6年度において、不就学の可能性のある外国人の子供の数は全国で8,432人であった。日本において外国人の子供が不就学になる要因と、その対策を論じなさい。

【出題意図】

【設問 II】は各専門領域についての知識を問う問題である。外国人の子どもの不就学の問題について、問題文の指示に従ったうえで専門知識に基づき論理的に解答しているかどうか、用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

【解答例・講評】

不就学と不登校との違いを把握していない解答が目立った。不就学の要因について法的・制度的な側面から論述した解答はみられず、不十分な解答が多かった。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 専門科目： 教育情報アセスメント 前期2年の課程一般

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問

【出題意図】

設問1，2とも教育情報アセスメントコースにおける学修に必要となる専門的な能力を，当該コースの研究分野に即した文章・図表を題材として評価するものである。設問Ⅰでは日本の学校教育に対するICT活用について理解し，今後の技術進歩による教育の変化について自身の考えを述べられているか確認した。設問Ⅱでは性別により理数系教科の成績に差がみられるのか複数のデータを読み解き客観的に考察できるかを確認した。各問題とも各資料を読みとる能力や分析の能力に加えて思考力・表現力の観点からも評価した。

【解答例・講評】

小論文形式なので解答例は省略。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 ■専門科目： 教育心理学コース（前期課程・一般選抜）

外国語科目： _____

小論文（社会人特別選抜）

小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 共通問題

【出題意図・解答例・講評】

領域に共通する心理学研究法である調査法について，得られた結果の解釈に関する問いを出題した。問題文に示されていない因果モデルを想定できているか，それらを論理的に説明できているかといった観点から採点を行った。

設問 A 問題（教授学習）

【出題意図・解答例・講評】

領域についての知識を問う A 問題では，授業場面での比較実験における方法論上の問題，学習方略に関する教育心理学的知見，および知識学習の成果に関する測定・評価のあり方についてたずねた。これらについて，問題文の指示に従った上で，適切な説明がなされているか，論理的に記述できているかといった観点から採点を行った。

設問 B 問題（発達心理）

【出題意図・解答例・講評】

領域についての知識を問う B 問題では，発達の規定因としての遺伝と環境という要因の相互性，J.ピアジェ（J.Piaget）による「前操作期」の発達段階における位置づけ，および発達研究における横断的方法と縦断的方法の利点と限界について取り上げた。これらのトピックについて，問題文の指示に従った上で，自身の有する知識に基づいて適切に説明が行えているか，解答の論理的な展開が適切か，用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

設問 C 問題（発達障害）

【出題意図・解答例・講評】

C 問題では，発達障害学領域において重要な，教育制度，実行機能や脳機能について取り上げた。これらのトピックについて，問題文の指示に沿った上で，自身の有する知識に基づいて，適切かつ論理的に説明ができているか，用いられている日本語が適切かといった観点から採点を行った。

◎出題意図, 解答例, 講評

試験科目名 □専門科目: 臨床心理学コース (一般・社会人・外国人)

- 外国語科目: _____
 □小論文 (社会人特別選抜)
 □小論文 (外国人留学生特別選抜)

1. 設問I 終末期のクライアントに対する心理職としての留意点
【出題意図】 詳しい知識はなくとも、心理職としての態度や心構えを問うことを意図して出題した
【解答例・講評】 基本的な支持的・共感的態度 クライアントと同じ目線を持つこと、医師との適切な協働のあり方 その他家族への配慮などが論理的に言及できているか否かを評価基準とした 適切に述べられている回答もあったが、不適切・不備なものも多かった

設問II 心理療法の効果要因について、ランバート (Lambert) らの研究などを参考に、考えるところを述べなさい。
【出題意図】 心理療法の効果要因については、ランバート (Lambert) らの研究が代表的であり、治療効果は特定の技法そのものよりも、複数の要因の相互作用によって説明されるとされている。この研究についての理解を問うことを意図とした
【解答例・講評】 ランバートは治療成果に寄与する要因を、①クライアント要因・治療外要因、②共通要因、③期待・プラセボ要因、④技法特異的要因に分類し、それぞれが一定の割合で治療効果に関与すると指摘した。 第一に、クライアント要因や治療外要因は、社会的支援や生活環境、変化への動機づけなどを含み、治療効果の中で最も大きな割合を占めるとされる。これは、心理療法がクライアントの人生文脈から切り離された技術介入ではないことを示している。第二に、共通要因としての治療同盟、共感、受容、信頼関係は、理論学派を超えて一貫して治療効果と関連する。とりわけ治療同盟は、治療初期からアウトカムを予測する重要な指標とされる。第三に、期待・プラセボ要因は、治療への希望や意味づけを通して変化を促進する。これは、クライアントが「理解された」「回復可能である」と感じる体験自体が治療的であることを示唆する。最後に、技法特異的要因は無視されるものではなく、特定の問題に対しては有効性が実証された介入が重要となる。 以上より、 心理療法の効果は単一の理論や技法に還元できず、クライアントの主体性と治療関係を基盤とした統合的理解が不可欠である と考えられる。 ランバートの心理療法の効果要因について知識及び理解をしている人が少なかった。その知識に基づき自らの考えを述べるという問題のため、知識及び理解がないと解答するのが困難な問題であった。

設問III 不登校の中学生とその保護者が来談した際に、心理職として重要と思うアセスメントの視点と初回面接の方針について述べなさい
【出題意図】 不登校の中学生とその保護者が来談したケースを想定させ、初回面接におけるアセスメントの視点と初回面接の方針についての基本的理解を確認する設問
【解答例・講評】 生物・心理・社会モデルに基づき多様な観点からアセスメントし、また、中学生・初回・保護者と来談といった状況を踏まえ適切な面接の方針を検討できるか確認した。社会的な側面に関しては多くの回答者が指摘できている一方、心理的側面に関しては相対的に言及が少なく、理解度の差が表れた。

設問 IV-1 児童相談所
【出題意図】 臨床心理学領域に関連の深い福祉に関する知識を問う意図で出題した
【解答例・講評】 「児童福祉法」第12条等に基づき都道府県・指定都市および児童相談所設置市に設置される行政機関であり、全国に219箇所設置されている。基本的には18歳未満の子どもの相談を全般的に受ける 2020年度に全国の児童相談所が対応した相談の種類別対応内容は、全体件数の約半数を養護相談が占め、養護相談のうち約7割が児童虐待に関するものであり、件数全体に占める層

待相談の割合は約40%である。重大な虐待死の事例が相次いでおり、医療、保健、法律その他の幅広い専門機関や職種との連携強化が重要である。
 職員体制は、児童福祉司が配置される判定部門、児童指導員や保育士などが配置される一時保護部門を基本として、近年は医師や保健師、弁護士を配置する児童相談所も増えつつある。
 相談の種類としては、養護相談、障害相談、非行相談、育成相談、その他がある。これらを大きく分けると2通りあり、一つは、保護者のない児童や保護者に監護させることが不相当であると認められる要保護児童への対応、つまり一時保護、施設や里親への措置などの行政処分及び家庭裁判所への申し立てを実施するもの。もう一つは主として保護者からの相談ニーズに応じて、障害や非行などの相談支援を行うものである

虐待に関連した回答をしているものは一部見られたが、法的立ち位置、職員体制に言及できていない回答は見られなかった

設問 IV-2 抗精神病薬

【出題意図】

臨床心理学領域に関連の深い精神医学 精神医療についての知識を問う意図で出題した

【解答例・講評】

幻覚妄想が主たる症状である精神病の治療薬のことであり、メジャートランキライザーとも呼ばれている。1950年代にクロルプロマジンとハロペリドールが代表的な抗精神病薬として登場した。いずれも脳内ドーパミン2受容体遮断が主作用であるが、前者を代表する低力価抗精神病薬は鎮静作用が強い一方で、抗コリン作用や抗ヒスタミン作用も強くそれに関連した副作用が主である。後者を代表する高力価抗精神病薬は脳内ドーパミン2受容体遮断効果が強く幻覚妄想に対する効果も強い反面、錐体外路系の副作用が強かった。1990年代にドーパミン2受容体とセロトニン A受容体をとともに遮断する第二世代抗精神病薬が登場した。これらは抗精神病薬効果に比して錐体外路系副作用が出にくいことから新規非定型抗精神病薬と呼ばれる。

向精神薬と混同した回答が見られたほか、誤った理解が多かった

設問IV3・4 ストレンジ シチュエーション法、ルーカス オブ コントロール

【出題意図】

発達心理学における実験的観察法であるストレンジ・シチュエーション法について、その実施や評価の方法等についての基本的理解を確認する設問

人生の出来事や結果の原因帰属に関する個人の認知傾向を示す社会心理学の概念である、ルーカス・オブ・コントロールについて、理論的背景や概念の構造等についての基本的理解を確認する設問

【解答例・講評】

理論的背景や、実施の手法については概ね適切な回答が得られていた。一方で、評価の方法に関しては、分類の誤認があるなど、理解度にばらつきがみられた。

当該概念について知っている受験者においては十分な回答が得られていた。一方で、大半の受験者では、無回答または完全に別の概念について回答している等、当該概念そのものについての知識が皆無であったと考えられ、回答分布が二極化していた。

設問 IV-5 交流分析

【出題意図】

臨床心理学における基礎的知識を問う意図で出題した

【解答例・講評】

交流分析 (Transactional Analysis とは、**E.バーン**が提唱した人格・対人関係の理論で、**人の心を親 (P)・大人 (A)・子ども (C) の3つの自我状態から理解**する。対人相互作用を「交流」として捉え、**そのパターン (相補・交差・裏面交流) を分析**することで、コミュニケーションの問題を明らかにする。また、人生脚本やストローク概念を通して、行動や感情の背景にある無意識的決定を説明する。臨床・教育・産業場面で、対人関係の改善や自己理解を目的に用いられる。

臨床心理学におけるたいへん基礎的知識を問う問題であったが、理解している人とそうでない人に分かれた。

設問 IV-6 無条件の肯定的な配慮 unconditional positive regard

【出題意図】

臨床心理学における基礎的知識を問う意図で出題した
<p>【解答例・講評】</p> <p>無条件の肯定的な配慮とは、C.ロジャーズの来談者中心療法における中核概念であり、クライアントの感情・思考・存在そのものを、評価や条件を付けずに受容し尊重する態度を指す。治療者は行動の善悪や社会的基準で判断せず、クライアントを一人の価値ある存在として関わる。この態度により、クライアントは自己防衛を低下させ、自己理解と自己受容を深めることが可能となる。結果として、自己概念の再統合とパーソナリティの成長が促進される。</p> <p>臨床心理学におけるたいへん基礎的知識を問う問題であった。多くの人が適切に解答していた。</p>
設問 IV-7
<p>【出題意図】</p> <p>臨床心理学的アセスメントの代表的技法の1つである投影法についての知識を問う意図で出題した。</p>
<p>【解答例・講評】</p> <p>投影法の概要、具体例、長所や短所について言及できているか否かを評価基準とした。総じて理解度は高く、大部分の回答において評価基準を満たす回答がなされていた。</p>
設問 IV-8
<p>【出題意図】</p> <p>臨床心理学的研究で多く用いられる統計解析手法としての確認的因子分析についての知識を問う意図で出題した。</p>
<p>【解答例・講評】</p> <p>当該手法の基礎となる因子分析、および「確認的」性質についての適切に説明できているか否かを評価基準とした。総じて理解度は低く、評価基準を十分に満たす回答をした受験者はみられなかった。</p>

※設問数に応じて、上記の表をコピーしてご報告ください。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 □専門科目： _____

□外国語科目： _____

■小論文（社会人特別選抜）

□小論文（外国人留学生特別選抜）

設問 I

【出題意図】

文章の内容を読解する能力および解答を論理的に提示する表現能力を問うた。問1では、文章の該当箇所の内容について、本文の内容に則して説明するために、論理的かつ明確に表現する能力を問うた。問2では、文章全体から重要な問題を要約し、その問題に対して、自身の専門性を踏まえた思考を論理的に表現する能力を問うた。

【解答例・講評】

上記の内容について、問題文の指示に従った上で、自身の有する知識・経験に基づいて適切に説明が行えているか、解答の論理的な展開が適切か、用いられている日本語が適切かと言った観点から採点を行った。

設問Ⅱ

【出題意図】

表の各数値を正確に読み取り、数値同士の関係を把握し、そこで確認された問題を、自分の専門分野の知見から説明する能力を問うた。問1では、複数の図表から数値や割合を読み取り、その関係について説明を求めた。問2では、問1で読み取った内容を元に、自身の専門分野の知見から課題や解決法を導き出す能力を問うた。

【解答例・講評】

上記について、問題文の指示に従った上で、各数値を正確に読み取れているか、また読み取った内容と自身の専門性を関連づけ、論理的な説明ができているか、日本語が適切かといった観点で採点を行った。

※設問数に応じて、上記の表をコピーしてご報告ください。

◎出題意図，解答例，講評

試験科目名 □専門科目： _____

□外国語科目： _____

□小論文（社会人特別選抜）

☑小論文（外国人留学生特別選抜）

設問Ⅰ

【出題意図】

パウロ・フレイレが提唱した「銀行型教育」という概念に関する学術的文章を提示し、教師と生徒の非対称な関係性や、それが学び手に与える抑圧的な影響（主体性の喪失や現実への順応）を正しく理解し、350字以内で簡潔にまとめる力を評価しようとしたもの。読解力に加え、論理的に再構成する日本語能力を測ることを目的とした。

(2) 50年前の教育批判を現代の「AI時代」という文脈に引き付け、古典的な理論の現代的意義を考察させるもの。AIが知識の蓄積・伝達を効率化する中で、人間特有の教育のあり方について自らの立場を明確にし、論理的な展開力・批判的思考力・表現力を評価しようとした。

【解答例・講評】

(1) 要約では、銀行型教育の比喻（預け手と容れ物）を正確に捉えつつ、それが「主体性の喪失」や「現実への適応」を招くという筆者の論理構成を制限字数内で表現できているかを評価した。キーワードを適切に盛り込めた解答がある一方で、教師の行動描写のみに終始し、それが人間の学び（知の形成）に及ぼす「影響」への言及が不足している解答も見受けられた。また日本語として成立しない答案も見受けられた。

(2) 意見文では、フレイレの批判とAI技術を的確に関連付け、独自の教育観を論理的に展開できているかを評価した。AIの登場を単なる利便性を捉えると同時に、「人間ならではの学びとは何か」という本質的な問いにまで触れた解答は高く評価した。一方で、AIの一般的な説明に終始し、本文の主張を踏まえた教育的展望を具体的に示せなかった解答もあり、論理性と構想力の差が示された。

設問Ⅱ

【出題意図】

(1) 文部科学省が毎年行っている「令和6年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」から2024年度の暴力行為に関する図表を抜粋の上提示し、現状を正しく読み取ることができる力、またそれを要約し日本語で適切に表現できる力を評価しようとしたもの。(2) 児童生徒の暴力行為に関して調査研究計画を立案させることで、自身の考えを表現する力を評価しようとしたもの。

【解答例・講評】

(1)暴力行為の全体像、経年変化、内訳、暴力行為加害児童生徒の学年の特徴について理解でき、これらを適切に日本語で表現できているか評価した。網羅的に理解し表現できている者もいる一方、一部の側面のみに着目しない回答もあり、理解力・表現力の差が示された。(2) リサーチクエスションの明快さ・妥当性、研究方法の明快さ・妥当性・実現可能性、言語的能力（文法・語彙・表記）、文章量などの諸観点から、評価を行った。全体としてリサーチクエスションについては概ね適切に設定されていたが、方法については明細さについて差が生じていた。

※設問数に応じて、上記の表をコピーしてご報告ください。